

## 勝島運河・大森ふるさとの浜辺公園の底生動物等

和波一夫 石井裕一 木瀬晴美

\*\*\*\*\*

【要約】勝島運河と大森ふるさとの浜辺公園で底生動物等の調査を実施した。勝島運河の底泥は還元状態であり、底層は無酸素状態であった。その影響を受け運河中央部では底生動物はほとんど出現しなかった。一方、護岸周辺の浅場では、ゴカイ類やフジツボ類が出現した。大森ふるさとの浜辺公園では、水深の浅い場所ではアサリなどの貝類が出現したが、水深の深い場所では無生物状態であった。運河などの閉鎖性が強い水域では、水質改善とともに生物が生息できる浅場の確保が重要な課題と考えられた。

\*\*\*\*\*

### 【目的】

運河や海浜公園は、都民の身近な水辺であり、きれいな水質と多様な生物の生息が求められている場所でもある。今回、都内運河の中では閉鎖性が強い勝島運河と、奥まった運河水域を大田区が浜辺に造成した「大森ふるさとの浜辺公園」の水生生物の実態を把握するため、底生動物・魚類・付着動物の調査を実施した。

### 【方法】

#### (1) 調査地点等

勝島運河 10 地点、大森ふるさとの浜辺公園 6 地点、芝浦分室 1 地点の計 17 地点について調査を行った。調査は、以下の日程で、2013 年 7 月 25 日～26 日、8 月 23 日、9 月 18 日、10 月 17 日～18 日の計 4 回実施した。

#### (2) 採取方法

底生動物は、エックマンバージ型採泥器 (15cm×15cm) を使用し、1 地点あたり 3 回採集した。調査地点が干出している場合はスコップを用いて同等の面積を採集した。魚類は、勝島運河ではサデ網(幅 90cm、高さ 90cm、深さ 90cm) を用いて、3 名×10 分の採集を行った。大森ふるさとの浜辺公園では小型地曳網を汀線に平行に約 20m 曳網し、1 回の採集面積が約 100 m<sup>2</sup> となるように採集した。付着動物は、垂直護岸のコンクリートなどに 30cm×30cm の方形枠を当て、枠内の付着動物を採取した。

### 【結果の概要】

全調査を通じて表 1 に示す 83 種が出現した。主な分類群は、二枚貝綱 15 種、多毛綱 18 種、軟甲綱 16 種、硬骨魚綱 12 種などであった。本調査で出現した生物種等の詳細は、本年報の pp124-125 に記載した。

#### (1) 希少種・外来種の出現状況

出現種のうち、表 2 に示す 8 種が環境省版レッドリスト若しくは東京都版レッドリストで希少種であり、ウネナントマヤガイは東京都版では絶滅種とされているが、本調査で存在が確認された。要注意外来生物は 5 種であった。この他に外来種とされているウスカラシオツガイ、ホンビノスガイ、アメリカフジツボ、ヨーロッパフジツボ、マンハッタンボヤの 5 種が出現した。

#### (2) 水深と底生動物の出現状況

各調査地点の平均水深と底生動物の出現種の間を関 1 に、水深と個体数の関係を関 2 に示す。水深が 1.5m 以下の比較的水深が浅い個所では種類数・個体数が多かった。これは、溶存酸素と底質の状況が大きく影響しているものと考えられた。勝島運河・大森ふるさとの浜辺公園の水質と底質の詳細は別報<sup>1)</sup>を参照されたい。

### 【参考文献】

- 1) 石井裕一, 和波一夫, 木瀬晴美: 勝島運河・大森ふるさとの浜辺公園の水質・底質環境, 東京都環境科学研究所年報 2014, pp. 90-91 (2014).

表 1 調査で出現した生物種

No.	門	綱	目	科	和名	No.	門	綱	目	科	和名
1	刺胞動物門	ヒドロ虫綱	ヒドロ虫目	ウミサザツキガヤ科	ウミサザツキガヤ科	46	節足動物門	顎脚綱	フジツボ目	フジツボ科	シロスシフジツボ
2		花虫綱	イソギンチャク目	タテシマイソギンチャク科	タテシマイソギンチャク	47					タテシマフジツボ
3					イソギンチャク目	48					アマリアフジツボ
4	扁形動物門	渦虫綱	多岐腸目		多岐腸目	49					ヨーロハフジツボ
5	紐形動物門				紐形動物門	50					トコフジツボ
6	軟体動物門	腹足綱	盤足目	タマキビ科	タマキビガイ	51	軟甲綱	タヌ目	タヌ科	タヌ目	タヌ目
7				ミスゴマツボ科	ウミゴマツボ	52		ワラジムシ目	ワラジムシ科	ワラジムシ科	ワラジムシ科
8				カラザンショウガイ科	カラザンショウガイ科	53		ヨコエ目	ヒゲナガヨコエ科	ヒゲナガヨコエ科	ヒゲナガヨコエ科
9			新腹足目	アツキガイ科	イホニシ	54			コンボヨコエ科	コンボヨコエ科	コンボヨコエ科
10			頭楯目	スイガイ科	カミスジカイコガイダマシ	55			ドロクダムシ科	ドロクダムシ科	ドロクダムシ科
11		二枚貝綱	フネガイ目	フネガイ科	サルホウガイ	56					アリアゲトクダムシ
12			イガイ目	イガイ科	ムラサキイガイ	57					メリヨコエ科
13					ミドリイガイ	58					モクスヨコエ科
14					ホトキスガイ	59					ワレカラ科
15					コウロエンカワヒバリガイ	60		ヒ目	テナガエビ科	テナガエビ科	テナガエビ科
16			かき目	イホガキ科	マガキ	61					ユビナガスジエビ
17			マルスダレガイ目	ブンフキドリガイ科	マルヤドリガイ	62					ホンヤドリ科
18				ハカガイ科	シオガキ	63					コフシガニ科
19				カワホトキス科	イガイダマシ属	64					ワタガニ科
20				フナガシ科	ウネナシトマヤガイ	65					イワガニ科
21				シジミ科	ヤマトシジミ	66					カクノフサイイガニ
22				イワホリガイ科	ウスカサシオツガイ	67	昆虫綱	ハエ目	チョウハエ科	チョウハエ科	チョウハエ科
23				マルスダレガイ科	ホネノガイ	68					ユスリ科
24					カミガイ	69					アシナガハエ科
25					アサリ	70					ハエ目(蜂)
26	環形動物門	多毛綱	サンバコガイ目	サンバコガイ科		71	脊索動物門	ホヤ綱	マホヤ目	モルクラ科	マンハツホヤ
27				オトヒコガイ科	ユキリオトヒコガイ	72	脊椎動物門	硬骨魚綱	コイ目	コイ科	コイ科
28				カキコガイ科	ハナオカカキコガイ	73			ダツ目	サヨリ科	サヨリ科
29				シリス科	シロマダラリス	74			スズキ目	スズキ科	スズキ科
30				ゴカイ科	コウゴカイ	75				シマイサキ科	シマイサキ科
31					ヤマトカウゴカイ	76				ホウ科	ホウ科
32					オウケゴカイ	77				ハゼ科	ハゼ科
33					アシナガコカイ	78					トロメ
34			スピオ目	スピオ科	シノフハネエラスピオ	79					マハセ
35						80					ヒナハセ
36					トロオニスピオ	81					アハハセ
37					ホソエリダスピオ	82					シモアジマハセ
38				ミスヒキコガイ科	ミスヒキコガイ	83					チヂブ
39			トコガイ目	トコガイ科							ハゼ科
40											
41			オフェリアコガイ目	オフェリアコガイ科	ツツオオフェリア						
42			ケヤリ目	ケヤリ科	ケヤリ科						
43				カンザンゴガイ科	カニヤドリカンザンゴガイ						
44		貧毛綱	トミス目	トミス科	トミス科						
45				トミス科	トミス科						

表 2 希少種と要注意外来種

	希少種	環境省版	東京都版	要注意外来種
腹足綱	ウミゴマツボ	準絶滅危惧	留意種	二枚貝類 ムラサキイガイ
腹足綱	カミスジカイコガイダマシ	絶滅危惧Ⅱ類		二枚貝類 コウロエンカワヒバリガイ
二枚貝類	ウネナシトマヤガイ	準絶滅危惧	絶滅	二枚貝類 イガイダマシ属
二枚貝類	ヤマトシジミ	準絶滅危惧	留意種	顎脚綱 タテジマフジツボ、
軟甲綱	シラタエビ		留意種	軟甲綱 チチュウカイミドリガニ
軟甲綱	ユビナガスジエビ		留意種	軟甲綱 ユビナガスジエビ
魚類	アベハゼ		準絶滅危惧	
魚類	チヂブ		留意種	

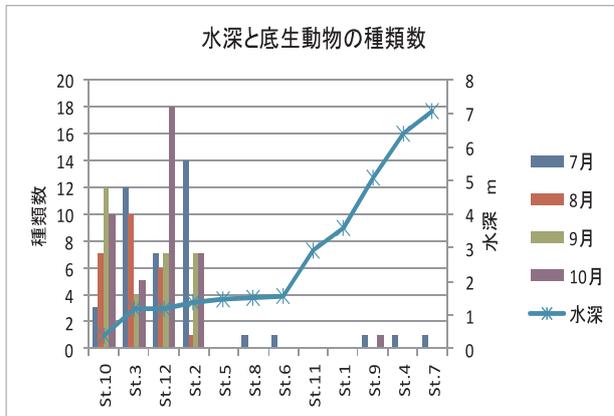


図 1 水深と底生動物の種類数の関係

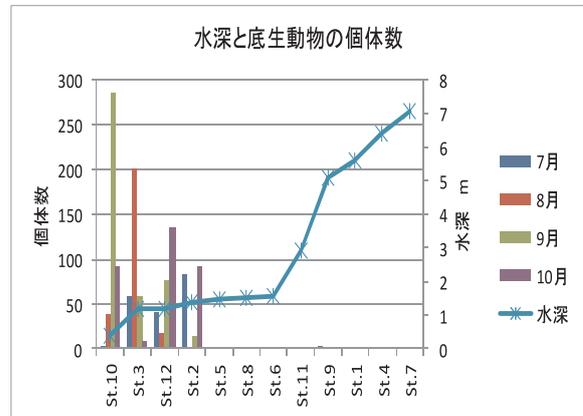


図 2 水深と底生動物の個体数の関係